



1

「グローバル人材を育む小中連携英語教育推進事業」 双葉地区8町村に学ぶ

- 双葉地区8町村では、「グローバル人材を育む小中連携英語教育推進事業」が平成28～30年度の3年間実施されています。(平成30年度は文部科学省委託事業) 東日本大震災及び原発事故による被災地区(帰還困難区域を含む。)において、大きな困難を抱えながら教育活動に取り組む全28の小中学校が、主に以下のような取り組みに力を入れています。他の地区にも参考になる先進的な英語教育の実践となっています。

(1) **ライブ授業**：各校をネット回線をつなぎ、授業を行ったり、交流をしたりしています。ネット回線を通じて、教室の中と外をつなぐことにより、以下のような教育的効果(参考：中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編)につながります。はじめて出会う児童・生徒及びALT等と豊かにコミュニケーションをとる姿が見られ、生きた英語の活用の場となります。

- ・ 現実感や臨場感を与え、学びの動機付けときっかけを与える。
- ・ 学校外へと広がる、現実との結び付きの濃い発展学習を実現する。
- ・ 音声面でも教師やALT等の使う英語だけでなく、ほかの様々な英語音声に触れる機会をもつことは、国際共通語としての英語に対する理解を深め、同時に自分自身の英語に対する自信を深めさせる。
- ・ 生徒一人一人が主体的に世界と関わっていこうとする態度を育成する。

英語だけではなく、他の教科での活用も行われています。また、極少数教育における主体的なコミュニケーション能力の育成にもつながっています。

(2) **異文化体験交流活動**：年に1回天栄村のブリティッシュヒルズに双葉地区8町村の小中学生(小5・中2)が集い、日頃の英語学習の成果を発揮しています。生きた英語が溢れる世界で、2日間英語を駆使して生活する子どもたちは、逞しい自律的英語学習者として、胸を張って各町村に戻っていきます。

(3) **英語DAY**：学校全体で英語を使い生活をする日、それが「英語DAY」です。月に1回実施する学校や、月に数回の実施に取り組む学校も出てきています。児童・生徒はもちろん、校長先生をはじめ全ての先生方がこの日は英語でコミュニケーションを取ることにしています。全校集会も英語、お昼の校内放送も英語、廊下で出会っても英語…。英語があふれる1日です。

(4) **英語掲示物**：双葉地区8町村の先生方は、ALTの先生たちと協力し、本当に素晴らしい掲示物を学校中に掲示し、英語の学習環境を充実させています。英語教室はもちろん、廊下や階段も英語の掲示物でいっぱいです。

- これらの原動力として、双葉地区の先生方が、「普通の授業」を大切にしていることは言うまでもありません。英語DAY等、取り入れてみませんか。



大熊中学校の英語コーナー

2

「活用力育成シート」を活用して授業づくりを推進しています！

- 今年度から中学校では、「活用力育成シート」の活用が始まっています。思考力・判断力・表現力等を育成するために、県内で様々な活用実践が見られます。
- 特に、活用力育成シートを参考にして、**単元構想及びパフォーマンス評価を改善**したり、**タスク活動を導入**したりするなど、自身の**授業改善**に取り組み、大きな成果を上げている学校もあるようです。

南会津教育事務所 外国語教育の「風」

「もっと学びたい！意欲が高まる外国語活動の実践」

～南会津地区 外国語教育推進リーダー 室井 康志 教諭・渡部 珠代 教諭～

南会津教育事務所管内では、田島小学校の室井康志教諭と館岩小学校の渡部珠代教諭の2名が、推進リーダーとして積極的に事業推進に取り組んでいます。室井教諭は、本務校である田島小学校と派遣校である田島第二小学校、桧沢小学校及び荒海小学校の合計4校を、渡部教諭は本務校である館岩小学校と派遣校である伊南小学校及び南郷小学校の合計3校を担当し、外国語活動の授業の充実に努めています。

室井教諭の実践より

A L TとのT・Tを効果的に活用し、「聞くこと」、「話すこと」に対する児童の意識を高めています。また、段階的に「書くこと」を取り入れたことにより、児童は「速く、正確に書く」ことを意識し、少しずつできるようになってきています。

渡部教諭の実践より

毎時間、授業のゴールを明確にし、児童が見通しをもって学習に取り組めるようにしています。また、「振り返りカード」を用い実態把握に努め、実態に応じた授業を心がけました。進んで英語を話そうとする児童が増えていきます。

南会津町の共通実践

南会津町では全小学校で推進リーダーを活用した授業を行っており、町全体で児童の英語教育に取り組んでいます。基本的にすべての授業がA L TとのT・Tであり、間違いを恐れず積極的に英語を使おうとする児童が着実に増えていきます。



相双教育事務所 外国語教育の「風」

「思いをのせたコミュニケーションを目指して」

～相双地区 外国語教育推進リーダー 佐藤 真理子 教諭～

佐藤教諭は、相馬市立桜丘小学校（本務校）、相馬市立大野小学校（派遣校）の2校で外国語活動の授業を担当しています。

推進リーダーとして活動を始めた頃は、前例がない事業に不安もあったそうですが、「友達と英語で会話ができるうれしい」「もっと英語を使ってみたい」という子どもたちの声が励みとなり、悩みながらも前向きに挑戦を続けています。相馬市はA L T、英語活動支援員の配置も充実しており、3人で協力しながら、子どもたちがいきいきと活動できるような授業づくりを進めています。

佐藤教諭が大事にしていることの1つに、「振り返りの時間」があります。子どもたち一人一人がA L Tとやり取りする時間を確保し、学んだことを確認しながら、達成感が得られるような場となるよう工夫しています。毎時間の積み重ねによって、子どもたちの心には英語を通して人とかかわる楽しさや喜びを感じる気持ちが芽生え、2学期には、カリフォルニアで起きた山火事で被災した方へ向けにお見舞いの手紙を書く活動や家族へのクリスマスカード作りなど、学んだことに自分の思いを添えて発信する活動にも真剣に取り組むことができました。

1月31日（木）には、中学校区を中心にした研究授業を行いました。推進リーダーとして、他の小学校や中学校の先生方に、授業の様子や内容を知っていただく絶好の機会となり、小中連携の視点をさらに広げることができました。

「外国語活動から外国語へ そして中学校英語へ」

佐藤教諭の「橋渡し」としての役割に、今後も期待が膨らみます。

